

ア 第8次市高齢者保健福祉計画の「8つの取組みの視点」  
に基づく事業の令和元年度実績報告等について

※別紙資料集1頁～ 補足説明資料と合わせてご覧ください

<p>取組みの 視点</p>	<p style="text-align: center;"><b>1 運営体制の充実と情報発信の強化</b></p> <p>運営体制の充実や情報発信の強化によって、本人が希望する暮らし方について本人や本人を支える多くの方々が気軽に相談でき、また、様々な取組を知ることで、互いに日頃から話し合えるような環境を整えることにより、住み慣れた地域で最後まで尊厳ある暮らしが続けられるような支援に努めます。</p>																								
<p>担当課</p>	<p style="text-align: center;">地域包括ケア推進課</p>																								
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">令和元年度実績</p>	<p><b>1 地域ケア会議事業</b></p> <p>各地域包括支援センターで個別ケア会議・小地域ケア会議を開催したほか、各地区保健福祉センターが所管する圏域の課題検討を行う中地域ケア会議、市全体の課題検討を行う地域包括ケア推進会議を設置し、「地域ケア会議」の充実を図っている。特に、中地域ケア会議においては、徘徊模擬訓練や医療介護塾の開催など、地域の実情に応じた取組みを実施。</p> <p><b>【地域ケア会議開催実績】</b></p> <table border="1" data-bbox="344 801 1259 1005"> <thead> <tr> <th>会議名</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>推進会議</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>中地域ケア会議</td> <td>14回</td> <td>19回</td> <td>10回</td> </tr> <tr> <td>小地域ケア会議</td> <td>67回</td> <td>57回</td> <td>9回</td> </tr> <tr> <td>個別ケア会議</td> <td>30回</td> <td>114回</td> <td>86回</td> </tr> <tr> <td>介護予防ケアマネジメント支援会議</td> <td>20回</td> <td>47回</td> <td>39回</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和元年度は台風19号及び新型コロナウイルス感染症の影響により、開催回数が減少。</p> <p><b>2 地域包括支援センター運営事業</b></p> <p>保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員等の専門職を配置し、介護予防ケアマネジメント、総合相談支援、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント業務を実施。</p> <p><b>3 つながる・いわき事業</b></p> <p>地域包括ケアに関するポータルサイトの運用やフリーペーパーの発行、体験学習型イベントなどを実施。</p> <p><b>【取組内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フェイスブック、ポータルサイト、紙媒体、イベント等での普及啓発を実施</li> <li>・紙のいごくの発行(3回)</li> <li>・いごくフェス2019の開催</li> </ul> <p><b>4 権利擁護事業</b></p> <p>権利擁護分野の中核機関として権利擁護・成年後見センターを設置し、権利擁護に関する支援などの実施。</p> <p>権利擁護知識の普及・啓発、総合相談窓口の設置、困難事例などに関する専門的支援・助言、権利擁護業務に携わる関係機関などによるネットワークの構築、専門研修の実施による人材育成、市民後見人養成講座を実施。</p>	会議名	平成29年度	平成30年度	令和元年度	推進会議	4回	3回	1回	中地域ケア会議	14回	19回	10回	小地域ケア会議	67回	57回	9回	個別ケア会議	30回	114回	86回	介護予防ケアマネジメント支援会議	20回	47回	39回
会議名	平成29年度	平成30年度	令和元年度																						
推進会議	4回	3回	1回																						
中地域ケア会議	14回	19回	10回																						
小地域ケア会議	67回	57回	9回																						
個別ケア会議	30回	114回	86回																						
介護予防ケアマネジメント支援会議	20回	47回	39回																						

<p>取組みの 視点</p>	<p style="text-align: center;"><b>1 運営体制の充実と情報発信の強化</b></p> <p>運営体制の充実や情報発信の強化によって、本人が希望する暮らし方について本人や本人を支える多くの方々が気軽に相談でき、また、様々な取組を知ることで、互いに日頃から話し合えるような環境を整えることにより、住み慣れた地域で最後まで尊厳ある暮らしが続けられるような支援に努めます。</p>												
<p>担当課</p>	<p style="text-align: center;">地域包括ケア推進課</p>												
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">令和2年度取組み予定</p>	<p><b>1 地域ケア会議事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個別ケア会議による具体的な事例や課題を積み上げ、小地域、中地域、推進会議、介護運営協議会等での共有・課題解決を図る。</li> </ul> <p>【地域ケア会議開催予定】</p> <table border="1" data-bbox="344 792 956 1005"> <thead> <tr> <th>会議名</th> <th>令和2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>推進会議</td> <td>3回</td> </tr> <tr> <td>中地域ケア会議</td> <td>21回</td> </tr> <tr> <td>小地域ケア会議</td> <td>9回</td> </tr> <tr> <td>個別ケア会議</td> <td>86回</td> </tr> <tr> <td>介護予防ケアマネジメント支援会議</td> <td>39回</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>2 地域包括支援センター運営事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員等の専門職を配置し、介護予防ケアマネジメント、総合相談支援、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント業務を実施。</li> </ul> <p><b>3 つながる・いわき事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な媒体による情報発信             <ol style="list-style-type: none"> <li>① フェイスブック、ポータルサイト、紙媒体、イベント等での普及啓発</li> <li>② 紙のいごくの発行（3回発行予定）</li> <li>③ いごくフェス2020の開催</li> </ol> </li> </ul> <p><b>4 権利擁護事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>尊厳ある暮らしの支援             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 権利擁護分野の中核機関である権利擁護・成年後見センターによる専門的支援や普及啓発</li> <li>② 成年後見制度における利用支援</li> <li>③ リビングウィル、エンディングノートの普及啓発</li> </ol> </li> </ul>	会議名	令和2年度	推進会議	3回	中地域ケア会議	21回	小地域ケア会議	9回	個別ケア会議	86回	介護予防ケアマネジメント支援会議	39回
会議名	令和2年度												
推進会議	3回												
中地域ケア会議	21回												
小地域ケア会議	9回												
個別ケア会議	86回												
介護予防ケアマネジメント支援会議	39回												

取組みの  
視点

## 2 安心して暮らせる住まい環境の整備

介護サービスの提供基盤については、「市高齢者保健福祉計画」に基づき、整備を進めてきましたが、今後も、サービス需要の増加、認知症高齢者の増加及び生活困窮者や社会的に孤立する高齢者等、多様な生活課題を抱える高齢者の増加に対応するため、適切にサービス提供基盤の整備を行います。

担当課

介護保険課

令和元年度実績

### 1 高齢者保健福祉計画に基づく施設整備

整備床数を定めた施設については、公募により整備事業者を選定している。

【令和元年度までの施設整備状況】

事業種別	整備計画 床数	選定済数		未選定数
		床数	選定者数	
特別養護老人ホーム	60床	45床	6者	15床
地域密着型特別養護老人ホーム	58床	0床	0者	58床
グループホーム	36床	36床	2者	0床
特定施設入居者生活介護事業所	60床	44床	1者	16床

### 2 高齢者住宅リフォーム給付事業

身体機能が衰えた高齢者の住宅を居住に適するように改良する場合、高齢者の自立促進及び介護者の負担軽減を図ることを目的に費用の一部を給付。

【実績】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
給付件数	89件	107件	105件

### 3 高齢者住宅リフォームに係る相談

住宅リフォームにあたり、理学療法士または作業療法士、建築士、ケースワーカー等でチームを組み、高齢者の身体機能、介護者の状況、家屋の状況等を踏まえて、必要な助言をする。

【実績】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
相談件数	120件	150件	128件

### 4 国の防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策

近年の自然災害をふまえ、防災のための重要インフラ等の機能維持対策を平成30年度から令和2年度までの3か年に集中的に実施する。具体的には、施設等へ「耐震化整備」、「ブロック塀等の改修」、「非常用自家発電設備の整備」、「給水設備の整備」等のニーズを調査し、整備を行う施設に対して補助金を交付する。

【令和元年度補助内訳】

整備内訳	施設区分
耐震化整備及び大規模修繕	3件(グループホーム)
ブロック塀等の改修	1件(老人福祉センター)
非常用自家発電の整備	0件
給水設備の整備	2件(特別養護老人ホーム、グループホーム)
合計	6件

# 令和元年度実績

## 5 台風19号の被害に伴う復旧

令和元年台風19号及び10月25日豪雨により被災した、市内介護サービス事業所等の事業再開に対する支援を図り、被災事業所等の早期復旧及び市内介護サービス等の確保を図るもの。

### 【復旧支援事業所内訳】

事業種別	件数	事業種別	件数
居宅介護支援事業所	2件	地域密着型通所介護事業所	4件
訪問介護事業所	2件	特別養護老人ホーム	1件
訪問看護事業所	1件	介護老人保健施設	1件
通所介護事業所	5件	認知症対応型共同生活介護事業所	4件
通所リハビリテーション事業所	1件	合計	21件

## 取組みの視点

## 2 安心して暮らせる住まい環境の整備

介護サービスの提供基盤については、「市高齢者保健福祉計画」に基づき、整備を進めてきましたが、今後も、サービス需要の増加、認知症高齢者の増加及び生活困窮者や社会的に孤立する高齢者等、多様な生活課題を抱える高齢者の増加に対応するため、適切にサービス提供基盤の整備を行います。

## 担当課

介護保険課

# 令和2年度取組み予定

### 1 高齢者保健福祉計画に基づく施設整備

- ・整備計画床数に達していない施設については、令和2年度に再公募を実施予定。
- ・選定済のものは、令和2年度中に施設の共用が開始されるよう竣工予定。

### 2 高齢者住宅リフォーム給付事業

- ・令和2年度給付見込件数：106件

### 3 高齢者住宅リフォームに係る相談

- ・令和2年度相談見込件数：172件

### 4 国の防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策

- ・令和2年度整備見込件数：9件

※令和2年度については新たな整備項目として、新型コロナウイルス感染症拡大防止を図るための「多床室の整備」を追加する。

取組みの 視点	<b>3 地域で支える仕組みづくりの推進</b>																				
	多様な主体によるサービスの創出と公的なサービスの充実によって、これまで対応できなかった生活支援ニーズにも対応できるような仕組みづくりを進めていきます。また、地域での声かけや見守りなど、住民主体による活動への支援を通じて、地域の支え合いの機運を高めていきます。																				
担当課	地域包括ケア推進課																				
令和元年度実績	<b>1 住民支え合い活動づくり事業</b> <p>平成27、28年度については、いわき市社会福祉協議会への業務委託により、モデル地区として選定された15地区において、社会福祉協議会地区協議会に配置された専任の生活支援コーディネーターや地域住民等で構成された協議体を設置し、対象となる高齢者に対し、ごみ出し、電球交換などの身近な生活支援を実施。平成29年度は、旧市町村の13圏域に協議体を設置し、本格実施に移行した。</p> <p>平成30年度から生活支援コーディネーターや、地域住民等で構成する協議体による新たな生活支援の創出に向けた支援を実施。</p> <p><b>【協議体設置数】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>協議体数</td> <td style="text-align: center;">15</td> <td style="text-align: center;">22</td> <td style="text-align: center;">37</td> </tr> </tbody> </table>		平成29年度	平成30年度	令和元年度	協議体数	15	22	37												
		平成29年度	平成30年度	令和元年度																	
	協議体数	15	22	37																	
	<b>2 あんしん見守りネットワーク活動事業</b> <p>地域住民と保健福祉関係機関(行政、地域包括支援センター、社会福祉協議会など)との協働により、地域内に「高齢者見守り隊」を結成し、見守りが必要な高齢者の洗い出しや、グループ編成による定期的な見守り活動、広報誌の作成、サロン活動などを実施。(令和2年3月末時点で市内33か所に隊が結成)</p>																				
	<b>3 配食サービス</b> <p>高齢者及び重度身体障害者の自立の促進、生活の質の確保、介護予防、孤独感の解消及び安否の確認を図ることを目的に配食サービス事業を実施。</p> <p><b>【配食サービス利用状況】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 別</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者数</td> <td style="text-align: center;">1,000名</td> <td style="text-align: center;">1,036名</td> <td style="text-align: center;">1,045名</td> </tr> <tr> <td>配食数</td> <td style="text-align: center;">160,416食</td> <td style="text-align: center;">172,177食</td> <td style="text-align: center;">185,809食</td> </tr> <tr> <td>市街地(平、小名浜、勿来、常磐、内郷、好間、四倉)</td> <td style="text-align: center;">143,332食</td> <td style="text-align: center;">154,378食</td> <td style="text-align: center;">169,647食</td> </tr> <tr> <td>中山間地(田人、遠野、三和、小川、川前、久之浜・大久)</td> <td style="text-align: center;">17,084食</td> <td style="text-align: center;">17,799食</td> <td style="text-align: center;">16,162食</td> </tr> </tbody> </table>	区 別	平成29年度	平成30年度	令和元年度	利用者数	1,000名	1,036名	1,045名	配食数	160,416食	172,177食	185,809食	市街地(平、小名浜、勿来、常磐、内郷、好間、四倉)	143,332食	154,378食	169,647食	中山間地(田人、遠野、三和、小川、川前、久之浜・大久)	17,084食	17,799食	16,162食
	区 別	平成29年度	平成30年度	令和元年度																	
	利用者数	1,000名	1,036名	1,045名																	
	配食数	160,416食	172,177食	185,809食																	
	市街地(平、小名浜、勿来、常磐、内郷、好間、四倉)	143,332食	154,378食	169,647食																	
	中山間地(田人、遠野、三和、小川、川前、久之浜・大久)	17,084食	17,799食	16,162食																	
<b>4 「つどいの場」会食事業</b> <p>高齢者の低栄養等による活動量の低下や体力低下を予防するとともに、孤独感の解消及び粗食の防止を図ることを目的として、「つどいの場」に参加する高齢者等を対象に、市と契約した事業所が「つどいの場」開催場所へ食事を提供する事業を実施。(平成30年6月から実施)</p> <p><b>【令和元年度事業実績】</b> 利用実団体数:144団体 利用食数:2,339食</p>																					

取組みの視点	3 地域で支える仕組みづくりの推進									
担当課	地域包括ケア推進課									
令和2年度取組み予定	<p>多様な主体によるサービスの創出と公的なサービスの充実によって、これまで対応できなかった生活支援ニーズにも対応できるような仕組みづくりを進めていきます。また、地域での声かけや見守りなど、住民主体による活動への支援を通じて、地域の支え合いの機運を高めていきます。</p>									
	<p>1 住民支え合い活動づくり事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な主体によるサービスの創出</li> <li>① 旧市町村単位での協議体による生活支援サービスの提供</li> <li>② 地域住民等で構成する協議体による更なる生活支援の創出</li> <li>③ 見守り活動以外のごみ出し、電球交換など、身近な生活支援(住民支え合い活動づくり)への支援</li> </ul> <p>【協議体設置目標数】</p> <table border="1" data-bbox="347 898 722 981"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>協議体数</td> <td>45</td> </tr> </tbody> </table>		令和2年度	協議体数	45					
		令和2年度								
	協議体数	45								
	<p>2 あんしん見守りネットワーク活動事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者見守り隊への活動支援等については、これまで「あんしん見守りネットワーク活動事業」として、主に地域包括支援センターの協力を得て、立ち上げ支援や活動支援を実施してきた。しかし、平成29年度から社会福祉協議会への業務委託により「住民支え合い活動づくり事業」を実施しているところであり、地域住民主体のグループによる第3層協議体の立ち上げが進められている。</li> <li>この第3層協議体には、高齢者見守り隊として活動している団体も参画し始めており、また、見守り活動も支え合い活動のひとつであるなど、両事業の内容が重複している。このため、関係機関及び各高齢者見守り隊と意見交換を行いながら、事業の統合を検討していく。</li> </ul>									
<p>3 配食サービス</p> <p>【配食サービス利用見込】</p> <table border="1" data-bbox="347 1552 1193 1753"> <thead> <tr> <th>区 別</th> <th>令和2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者数</td> <td>1,070名</td> </tr> <tr> <td>配食数</td> <td>200,100食</td> </tr> <tr> <td>市街地(平、小名浜、勿来、常磐、内郷、好間、四倉)</td> <td>179,000食</td> </tr> <tr> <td>中山間地(田人、遠野、三和、小川、川前、久之浜・大久)</td> <td>21,100食</td> </tr> </tbody> </table>	区 別	令和2年度	利用者数	1,070名	配食数	200,100食	市街地(平、小名浜、勿来、常磐、内郷、好間、四倉)	179,000食	中山間地(田人、遠野、三和、小川、川前、久之浜・大久)	21,100食
区 別	令和2年度									
利用者数	1,070名									
配食数	200,100食									
市街地(平、小名浜、勿来、常磐、内郷、好間、四倉)	179,000食									
中山間地(田人、遠野、三和、小川、川前、久之浜・大久)	21,100食									
<p>4 「つどいの場」会食事業</p> <p>【令和2年度利用見込】 利用団体数:55団体 利用食数:1,800食</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、利用団体数の減少を見込んでいます。</p>										

取組みの  
視点

## 4 健康づくり・介護予防の推進

公的なサービスの多様化と拡充を図るため、サービス提供体制を強化していきます。また、自助・互助・共助・公助の役割分担の明確化と、自助・互助へ効果的な公的支援の在り方を整理していきます。

担当課

地域包括ケア推進課

令和元年度実績

### 1 介護予防ケアマネジメント支援会議の開催

平成29年10月から、薬剤師、理学療法士等専門職による助言を通じて、利用者本人のQOL向上を目指す介護予防ケアマネジメント支援会議を導入。

※QOL(Quolity Of Life):クオリティ・オブ・ライフとは、ひとりひとりの人生の質や生活の質などを意味する言葉。個々人の生活がどの程度充実したものになっているかという指標としての意味も持ち、健康状態や、人間関係、生きがい、住環境など様々な観点から評価される。

#### 【開催回数】

年度	開催回数	検討ケース数
平成29年度	20回	71件
平成30年度	47回	184件
令和元年度	39回	121件
合計	106回	376件

### 2 シルバーリハビリ体操事業

介護予防の意識の醸成と、地域ぐるみで誰もが気軽に介護予防活動に参加できることを目的に、いわき市シルバーリハビリ体操事業を実施。地域の体操教室等への指導士派遣に加え、指導士の養成を行っている。

#### 【体操指導士派遣状況】

年度	派遣回数	参加者数
平成29年度	5,851回	75,650名
平成30年度	6,500回	75,256名
令和元年度	6,163回	68,688名

#### 【体操指導士養成講座開催数】

年度	開催数	参加者数
平成29年度	10回	96名
平成30年度	8回	52名
令和元年度	7回	50名

※令和元年度は台風19号及び新型コロナウイルス感染症の影響により、派遣回数・講座開催回数が減少。

### 3 つどいの場創出事業

各地域にコーディネーターを配置し、「つどいの場」の立ち上げや運営の支援を行うほか、団体の活動費の一部補助を行う「つどいの場創出支援事業」を実施。

コーディネーター委託状況は、社会福祉協議会13名(地区協議会に各1名)、地域福祉ネットワークいわき5名(平2名、小名浜、勿来、内郷に各1名)。

令和2年3月末時点においては、443の団体が活動を行っている。

取組みの  
視点

## 4 健康づくり・介護予防の推進

公的なサービスの多様化と拡充を図るため、サービス提供体制を強化していきます。また、自助・互助・共助・公助の役割分担の明確化と、自助・互助へ効果的な公的支援の在り方を整理していきます。

担当課

地域包括ケア推進課

令和2年度  
取組み  
予定

### 1 介護予防ケアマネジメント支援会議の開催

- ・ 専門職による助言を活用し、利用者のQOL向上に繋げるため今後も継続的に開催。

【開催見込】

年度	開催回数	検討ケース数
令和2年度	39回	117件

### 2 シルバーリハビリ体操事業

- ・ 介護予防活動の担い手の確保と活動支援

- ① シルバーリハビリ体操指導士の養成及び活動支援
- ② シルバーリハビリ体操の普及・啓発

【体操指導士派遣見込】

年度	派遣回数	参加者数
令和2年度	7,000回	77,000名

【体操指導士養成講座開催見込】

年度	開催数	参加者数
令和2年度	4回	64名

### 3 つどいの場創出事業

- ・ 介護予防活動などに取り組む地域拠点の拡充  
「つどいの場」の立ち上げ支援／開催頻度拡大のための支援

### 4 介護予防・生活支援サービス事業

- ・ 参入事業者が不足している通所型短期集中予防サービスについて、サービス利用を終了した利用者が、地域活動（シルバーリハビリ体操やつどいの場への参加、就労、ボランティア等）に移行した場合、サービス事業者に対して、インセンティブ（報奨金）を支払う取組みを導入。金額は地域活動へ移行した利用者1人につき35,000円。  
「利用者の地域活動への移行の促進」や「通所型短期集中予防サービス事業者の新規参入の促進」等を目的とし、自主的な介護予防を推進している。

【目標】

項目	数値
短期集中予防サービス見込み利用者数	428名
地域活動移行率	70%
インセンティブ目標対象者数	300名



## 5 生きがいつくりと社会参加の促進

取組みの  
視点

これまで、地域福祉活動、子育て支援、地域づくりなど、より広い分野での社会参加機会の創出や、地域社会との交流を図る場の創出に努めました。高齢期のライフスタイルの多様化に対応するためには、高齢者の社会参加機会の選択肢を拡充していく必要があります。今後は、より多くの高齢者がこれらの場へ参加できるような取組みを推進するとともに、高齢者の多様な就労ニーズに対応するため、関係機関と連携強化を図り、地域における多様な就労機会を確保・提供していきます。

担当課

地域包括ケア推進課・介護保険課

令和  
元  
年  
度  
実  
績

### 1 いきいきシニアボランティアポイント事業

高齢者の自主的な介護予防活動及び地域福祉活動等を積極的に奨励、支援するため、市が指定するボランティア等の活動に参加した高齢者にポイントを付与し、当該ポイントを商品等に還元することにより、高齢者自身の社会参画の促進並びに介護予防の推進と、本市における地域包括ケアの推進に寄与することを目的に実施。

【実績】

年度	参加者数	商品 還元者数	商品 還元率	ボランティアポイント 受入施設数
平成29年度	678名	389名	57.40%	108箇所
平成30年度	799名	576名	72.10%	142箇所
令和元年度	870名	652名	74.94%	150箇所

### 2 シルバー人材センターの活動支援

高齢者の就業機会を確保することによって、生きがいの充実、社会参加の推進を図ることにより、高齢者の能力を活かした活力ある地域社会づくりを支援している。

【実績】

年度	男性会員数	女性会員数	総会員数	受託件数
平成29年度	836名	265名	1,101名	6,743件
平成30年度	843名	279名	1,122名	6,418件
令和元年度	858名	283名	1,141名	6,030件

※各年度末時点

### 3 シルバーフェア(シルバー文化祭)の開催

高齢者が日頃取り組んでいる芸術活動の成果の発表の場を設けることで、高齢者の意欲向上と積極的な社会参加を促し、生きがいつくりを支援する目的で、いわき市老人クラブ連合会に委託し、実施。

【実績】

年度	芸能祭 参加者数	創作展		備考
		作品出品総数	入場者数	
平成29年度	24組 500名	839点	930名	
平成30年度	15組 200名	430点	484名	文化センター耐震改修工事により、開催時間の短縮や会場変更が生じたため、参加者減少。
令和元年度	12組 195名	406点	448名	台風19号の影響により、参加者減少。

## 5 生きがいつくりと社会参加の促進

取組みの  
視点

これまで、地域福祉活動、子育て支援、地域づくりなど、より広い分野での社会参加機会の創出や、地域社会との交流を図る場の創出に努めました。高齢期のライフスタイルの多様化に対応するためには、高齢者の社会参加機会の選択肢を拡充していく必要があります。今後は、より多くの高齢者がこれらの場へ参加できるような取組みを推進するとともに、高齢者の多様な就労ニーズに対応するため、関係機関と連携強化を図り、地域における多様な就労機会を確保・提供していきます。

担当課

地域包括ケア推進課・介護保険課

令和2年度  
取組み  
予定

### 1 いきいきシニアボランティアポイント事業

- 参加者、受入機関の拡大については引き続き実施していくとともに、参加者と受入機関のマッチングについて、市が仲介する等積極的に行っており、更なる事業拡大を図る。

【見込】

年度	参加者数	商品 還元者数	商品 還元率	ボランティアポイント 受入施設数
令和2年度	880名	880名	100.00%	160箇所

### 2 シルバー人材センターの活動支援

- 高齢者が希望する「臨時的かつ短期的なもの」、「その他の軽易な業務」の就業機会を確保、拡大するとともに、会員増強を積極的に図る。

【目標】

年度	総会員数	受託件数
令和2年度	1,300名	7,000件

### 3 シルバーフェア(シルバー文化祭)の開催

芸能祭:11/4(水)予定(募集予定:20組)

創作展:12月11日(金)~12月18日(金)開催予定

## 6 介護人材の確保・育成と介護サービスの充実

取組みの  
視点

国を挙げて取り組んでいる介護離職ゼロや地域医療構想の推進に伴い、今後さらに拡大する介護サービスへの需要に対応できるよう、必要となる介護人材の確保に向け、これまで以上に介護の仕事が魅力ある職業として認知されるような取組みを重点的に実施するとともに、介護人材及び介護サービスの質を向上させる取組みを実施し、国、県及び事業者等と連携を図りながら、本市の実情に応じた取組みを推進していきます。

担当課

介護保険課

令和元年度実績

### 1 福祉介護人材定着支援事業

介護人材の育成及び定着支援を目的に、役職・経験年数等に応じたセミナーを開催。セミナー内容については、参加者数や事業所のニーズ等を踏まえ、毎年度、内容を見直すこととしている。

令和元年度においては全6回のセミナーを予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響から、前半2回の実施に留まり、後半の4回は中止となった。

#### 【セミナー開催実績】

形式	研修内容	平成30年度実績		令和元年度予定		令和元年度実績		備考
		回数	人数	回数	人数	回数	人数	
講義 式	<コミュニケーションスキルアップセミナー> 対象:概ね3～5年目職員 内容:コミュニケーションスキルアップを目的に、「気づき」、「聞き取り」、「伝達」の技術を学ぶ。	1	11					
	<OJTリーダー養成セミナー> 対象:概ね5年以上の中堅職員 内容:グループワーク等により後輩職員への適切な指導方法を学ぶ。	1	13					
	<業務改善研修> 対象:概ね5年以上の中堅職員 内容:業務の効率化を図るため、問題点の洗い出し、原因の究明、目標設定等を通じて、現状調査や分析方法等の技法を学ぶ。	1	16					
	<苦情対応研修(上級編)> 対象:施設の管理・監督者 内容:モラルハラスメント等の不当な要求に対して、組織として対応するための手法や法的な対応方法について学ぶ。	1	12					
	<労務管理研修> 対象:施設の管理・監督者 内容:労務管理に関する関係法令等を学ぶ。	1	16	1	50			新型コロナウイルス感染症の影響により中止
	<コミュニケーション研修> 対象:施設の管理・監督者 内容:働きやすい職場環境を目指し、風通しの良い職場をつくるためのコミュニケーションスキルについて学ぶ。			1	50			新型コロナウイルス感染症の影響により中止
技能 実習	<介護技術研修> 対象:全職員 内容:介護職員等の腰痛予防(負担の少ない介助)を図るため、身体の構造を学ぶ。	1	50					
	<介護技能研修(基礎編)> 対象:概ね入職1年以内の職員 内容:研修機会の少ない事業所を中心に、介護職員の離職原因となる腰痛予防の研修。			2	60	1	6	新型コロナウイルス感染症の影響により全2回中1回中止
	<介護技能研修(応用編)> 対象:概ね入職1年以上の職員 内容:研修機会の少ない事業所を中心に、介護職員の離職原因となる腰痛予防の研修。			2	60	1	5	新型コロナウイルス感染症の影響により全2回中1回中止
計		6	118	6	220	2	11	

### 2 外国人介護人材の活用の検討

市内介護サービス事業所のうち、人員基準で介護職員の配置が規定されている事業所に対し、外国人の就労状況及び雇用ニーズについてアンケートを実施。

対象事業所数 : 534件

うち回答事業所数 : 196件

#### 【主なアンケート内容】

- ・外国人介護職員への関心
- ・外国人介護職員受入に係る課題 等

<p>取組みの 視点</p>	<h2 style="text-align: center;">6 介護人材の確保・育成と介護サービスの充実</h2>
<p>担当課</p>	<p style="text-align: center;">介護保険課</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">令和2年度取組み予定</p>	<p>国を挙げて取り組んでいる介護離職ゼロや地域医療構想の推進に伴い、今後さらに拡大する介護サービスへの需要に対応できるよう、必要となる介護人材の確保に向け、これまで以上に介護の仕事が魅力ある職業として認知されるような取組みを重点的に実施するとともに、介護人材及び介護サービスの質を向上させる取組みを実施し、国、県及び事業者等と連携を図りながら、本市の実情に応じた取組みを推進していきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 福祉介護人材定着支援事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護サービス事業所の長及び従業員等を対象としたセミナーを開催し、職員等のスキルアップを図ることで、職場環境の改善を促し、もって介護職員の定着率向上を目指す。</li> </ul> <p style="margin-left: 2em;">セミナー開催予定数：8回 ※セミナー内容については未定。</p> </li> <li>2 外国人介護人材の活用の検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和元年度に事業所に対して実施したアンケートの分析を行い、外国人介護人材の受入れ施設が拡充するような支援等を検討する。</li> </ul> </li> <li>3 介護の仕事の魅力向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中学生に対し、介護施設と連携して、高齢者疑似体験や車いすの乗車体験等を通して、高齢化社会における介護の仕事の社会的な意義や価値について学ぶ場を提供する。今年度から新規の出前講座の開設あり。</li> </ul> <p style="margin-left: 2em;">講座名：人生100年時代「介護」の仕事のをぞいてみよう！</p> <p style="margin-left: 2em;">内容：高齢者疑似体験や車いすの乗車体験等を通して、超高齢化社会における「介護」の仕事の社会的な意義や価値を伝える。</p> </li> <li>4 優良事業所表彰制度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護人材の確保や介護サービスの質の向上に向け、職員が働きやすく、働き甲斐のある職場環境づくりや、利用者本位のサービス提供などに積極的に取り組む介護事業所を表彰し、表彰者を広く周知する。</li> </ul> </li> </ol>

## 7 医療と介護の連携強化

取組みの  
視点

医療と介護の連携については、いわき市医師会や地域包括支援センターなど様々な団体において顔の見える関係づくりを行っており、一定の連携体制の構築が図られてきました。今後は、連携に関する課題を把握し、その解決策について具体的な目標や成果指標の設定をしたうえで、医療・介護関係者間での共有を図り、進捗管理を行うなど、医療と介護の連携が深化できるよう推進していきます。また、関係者だけでなく、広く市民に在宅医療やリビングウィルなどについて啓発を行っていきます。

担当課

地域医療課

令和元年 実績

### 1 在宅医療・介護連携の課題抽出と対応策の検討

いわき市地域包括ケア推進会議の作業部会として位置づけられた「医療と介護連携促進部会」を平成27年度から設置し、関係団体の代表者と協議を行っている。

	日程	協議内容
第1回	10月9日	平成30年度の取組み状況と令和元年度の取組みについて 等
第2回	3月25日	資源把握(在宅医療・介護連携情報リスト)について 等

→新型コロナウイルス感染症の影響により、中止

### 2 地域の医療・介護資源の把握

医療・介護関係者に対し、連携する上で必要な情報を提供し、照会先や協力依頼先を適切に選択、連絡するためのツールである「在宅医療・介護連携情報リスト」を最新の情報(令和元年11月1日時点)に更新を行った。

### 3 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進

退院後に切れ目なく介護サービスを受けられるよう、病院とケアマネジャーが連携し、入院情報を共有し、退院に向け連絡調整を行う仕組みである「退院調整ルール」の運用状況を把握するため、病院とケアマネジャーに対しアンケート調査を行い、その結果を踏まえ「いわき医療圏退院調整ルール運用評価会議」を令和2年2月に開催し、ルールの追加等について協議を行い、所要のルールを追加した。

### 4 在宅医療・介護連携に関する相談支援

医療と介護の連携を推進するため、市医師会への委託により、医療・介護等専門職からの相談窓口である「いわき市在宅医療・介護連携支援センター」を平成31年4月1日から市総合保健福祉センター内に設置した。

目的	医療・介護等専門職や地域包括支援センターから、在宅医療・介護連携に関する相談等を受け付け、連携調整や情報共有等により、その対応を支援する。	
開設時間	8時30分から17時(土日祝日、年末年始を除く)	
配置職員	看護師かつ介護支援専門員の資格を有する者 1名 社会福祉士の資格を有する者 1名 事務職 1名	
主な業務	在宅医療に関する専門相談窓口、多職種・多機関の連携推進のための研修	

### 5 医療・介護関係者の研修

市医師会との共催により、地域の医療・介護関係者の連携を推進するため、多職種研修会を開催している。

	日程	研修内容	受講者数
第1回	7月7日	在宅医療推進のための多職種研修会	62名
第2回	11月10日	在宅医療推進のための多職種研修会	

→ 東日本台風(台風第19号)の影響により中止

<b>令和元年度実績</b>	<p><b>6 地域医住民への啓発活動</b></p> <p>地域の医師が公民館等で市民向けに講演を行う「在宅医療出前講座」を実施(市医師会主催、当市、市地域包括支援センター共催)。 市内6会場(6日間)で行い、計176名の参加があった。</p>
	<p><b>7 在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携</b></p> <p>令和2年2月に実施した「いわき医療圏退院調整ルール運用評価会議」に、相双医療圏の檜葉、双葉町職員や県職員が参加し、連携を図った。</p>

<b>取り組みの視点</b>	<b>7 医療と介護の連携強化</b>
	<p>医療と介護の連携については、いわき市医師会や地域包括支援センターなど様々な団体において顔の見える関係づくりを行っており、一定の連携体制の構築が図られてきました。今後は、連携に関する課題を把握し、その解決策について具体的な目標や成果指標の設定をしたうえで、医療・介護関係者間での共有を図り、進捗管理を行うなど、医療と介護の連携が深化できるよう推進していきます。また、関係者だけでなく、広く市民に在宅医療やリビングウィルなどについて啓発を行っていきます。</p>
<b>担当課</b>	地域医療課
<b>令和2年度取り組み予定</b>	<p><b>1 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療と介護連携促進部会の開催(年2～3回)</li> </ul>
	<p><b>2 地域の医療・介護資源の把握</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅医療・介護連携情報リストの更新作業(10月頃)とマップ化の検討</li> </ul>
	<p><b>3 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「いわき医療圏退院調整ルール」運用評価会議を開催し、退院調整ルールの運用状況の把握や課題の抽出(1月頃)</li> </ul>
	<p><b>4 在宅医療・介護連携に関する相談支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「いわき市在宅医療・介護連携支援センター」の広報や受付相談状況の確認等(年間を通して)</li> </ul>
	<p><b>5 医療・介護関係者の研修</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多職種研修会の開催(年2回程度)</li> </ul>
	<p><b>6 地域医住民への啓発活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅医療出前講座の開催(6会場程度)</li> </ul>
	<p><b>7 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他医療圏(相双医療圏、県中医療圏)の運用評価会議等へ参加し、医療圏連携について検討(年間を通して)</li> </ul>
	<p><b>8 医療・介護関係者の情報共有の支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「診療情報提供シート」(利用者がより効果的な支援や在宅サービスが受けられるよう、介護支援専門員が医師等に対し、医学的意見や診療情報、相談の希望があるときに使用する)の運用状況の把握や課題の抽出(1月頃)</li> </ul>

## 8 認知症対策の推進

取組みの  
視点

認知症の方の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会を実現すべく、認知症の状態像に合せた適時適切な医療・介護サービスが提供される体制の構築を図っていきます。また、認知症の方とその家族を支えるため、認知症の正しい理解の普及啓発を基にした地域づくりを進めていきます。

担当課

地域包括ケア推進課

令和元年度実績

### 1 認知症サポーター養成講座の開催

認知症を正しく理解し、認知症の方やその家族を地域で支えていくことができるよう、温かく見守る“応援者”である「認知症サポーター」の養成を行っている。

【実績】

区別	平成29年度	平成30年度	令和元年度
認知症サポーター養成数	3,226名	2,211名	1,967名

※令和元年度は台風19号及び新型コロナウイルス感染症の影響により、開催回数が減少した。

### 2 認知症初期集中支援チームの設置

認知症の初期診断・早期対応の体制として、専門職のチームが認知症の方や認知症が疑われる方、その家族等を訪問し、初期段階における包括的・集中的支援を行い、適切な医療・介護につなげることを目的としている。

【認知症初期集中支援チームの実績】

区別	平成29年度	平成30年度	令和元年度
新規件数	13件	22件	18件
のべ訪問数	44回	76回	106回
会議開催数	10回	21回	21回

### 3 認知症カフェ事業

認知症の方とその家族等のピアサポートの場、専門職による相談の場、認知症の正しい理解の普及啓発と地域の方の交流の場として「オレンジカフェ以和貴」を実施している。

【認知症カフェ「オレンジカフェ以和貴」開催実績】

地区	会場	平成29年度		平成30年度		令和元年度		備考
		回数	参加者数	回数	参加者数	回数	参加者数	
平	スカイストア	5回	51名	—	—	—	—	平成29年8月終了
	イトーヨーカドー平店	7回	93名	12回	87名	10回	77名	平成29年9月開始
小名浜	サニーボート小名浜	12回	72名	12回	87名	11回	126名	
	エブリア	5回	85名	—	—	—	—	平成29年10月終了
	丸ほん	7回	108名	12回	145名	11回	112名	平成29年11月開始
勿来	グループホームわいの家	—	—	3回	59名	11回	190名	平成31年1月開始
	いきがい村	—	—	2回	15名	11回	94名	平成31年2月開始
常磐	サンライフゆもと	12回	143名	12回	127名	11回	120名	サテライト開催含む
内郷	ラウンジミュウ	12回	180名	12回	194名	11回	196名	
四倉	喫茶レオ	13回	152名	13回	132名	9回	47名	平成29年4月開始・サテライト開催含む
好間	サンシャインよしま	—	—	—	—	6回	34名	令和元年8月開始
平	いつだれkitchen	—	—	—	—	5回	61名	令和元年11月開始
合計		73回	884名	78回	846名	96回	1,057名	

# 令和元年度実績

## 4 認知症多職種協働研修会

認知症の方の生活を支援するには、医療・介護職の各々の認知症対応に加え、医療・介護での有機的な連携を推進することが必要である。このため、県より指定を受けた「認知症疾患医療センター」との連携によって研修会を開催。

### 【開催実績】

年度	時期	会場	参加者数
平成29年度	H30.3	舞子浜病院	80名
平成30年度	H31.3		50名
令和元年度	R1.11		50名

## 5 小学生向け認知症教室の開催

小学生は「認知症という病状」に対する先入観がないため、認知症は誰にでも起こりうる疾患として理解が得られやすく、さらに児童から親への啓発による早期発見・早期対応に繋がるのが期待されることから、市内の小学4年生を対象に開催。

### 【開催実績】

年度	受講者数	実施校数	実施校
平成30年度	249名	7校	磐崎、四倉、大浦、大野一、好間二、久ノ浜一、久ノ浜二
令和元年度	329名	9校	平三、小名浜二、四倉、大浦、大野一、好間二、久ノ浜一、久ノ浜二

## 6 VR認知症体験会の開催

認知症をじぶんごととして考えるきっかけとなるよう、VRを用いて認知症を疑似体験できる体験会を市民向けに開催。

### 【開催実績】

年度	開催日程・会場	参加者数
平成30年度	H30.9.7 いわきアリオス(いごくフェス2018)	約100名
令和元年度	R2.1.23 総合保健福祉センター	約100名

## 8 認知症対策の推進

取組みの  
視点

認知症の方の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会を実現すべく、認知症の状態像に合せた適時適切な医療・介護サービスが提供される体制の構築を図っていきます。また、認知症の方とその家族を支えるため、認知症の正しい理解の普及啓発を基にした地域づくりを進めていきます。

担当課

地域包括ケア推進課

取  
組  
和  
み  
2  
予  
年  
定  
度

- 認知症に関する正しい知識と理解の促進
  - 認知症サポーターに係る養成講座の開催と活動支援
  - 小学生向け認知症教室の開催
  - 認知症あんしんガイドの改訂/配布
- 認知症本人とその家族の支援の充実
  - オレンジカフェ以和貴の拡充
  - 認知症初期集中支援チーム活動拡充
- 認知症本人とその家族の視点重視
  - VR認知症体験会の開催
- 多職種による認知症の本人及び家族介護者への支援(連携)体制の構築
  - 認知症多職種協働研修会の開催